

神奈川県で見られるクサリゴケ図説 4

磯野寿美子 *

Lejeuneaceae species in Kanagawa, Japan 4. ISONO Sumiko* (*Hiraoka Environmental Science Laboratory, 5-15-6 Harajuku, Midori, Sagami-hara, Kanagawa, 252-0102 Japan)

As a continuation of my first through third papers on Lejeuneaceae species in Kanagawa, Japan, this paper provides additional drawings of 5 species: *Archilejeunea planifolia*, *Cheilolejeunea trapezia*, *Dicranolejeunea yoshinagana*, *Lejeunea flava*, and *Nipponolejeunea pilifera*.

Keywords

Lejeuneaceae, drawings, Kanagawa

クサリゴケ科, スケッチ, 神奈川県

1 はじめに

神奈川県で見られるクサリゴケ図説 1-3¹⁻³⁾ に続き、図説 4 では 5 種のクサリゴケの仲間をスケッチした。県内の生育地は 2007 年版チェックリスト⁴⁾ を引用した。

これまでスケッチにはできるかぎり県内産の生の試料を用いたが、試料採集が難しい種に関しては、乾燥標本を使用した。

2 生育地と種の特徴

Archilejeunea planifolia (Horik.) Mizut.

ミヤジマヒメゴヘイゴケ (図 1)

生育地：谷太郎川。

県内での生育地は 1 ヶ所で、谷太郎川の登山道わきの川岸の岩上にわずかに蘚類と混生していた。2000 年に生育が確認されて以来、県内での報告はない。

特 徴：油体は各細胞に 15-30 個、楕円形で均質であるが⁵⁾、乾燥標本からのスケッチなので記録はできなかった。細胞のトリゴンは大きい。葉は卵形から長楕円形。腹葉の幅は茎の 1.5 倍、円形に近い。腹片は葉の 1/2-3/5 長と大きい。歯牙は 1 細胞幅で 1-3 細胞長 (図 1I,J)。透明細胞は歯牙の

内側の基部にあるが⁵⁾、標本からは確認できなかった。雌雄異株と報告されているが⁶⁾、神奈川県産の標本では花被や雄苞葉は確認できなかった。植物体の色は茶色がかった緑色で、2-3 mm と微小、仮根は県内産にはほとんどない。

Cheilolejeunea trapezia (Nees) R. M. Schust. et Kachroo

シゲリゴケ (図 2)

生育地：谷太郎川、大山、大雄山。

県内では山地の岩上や樹幹に生育する。

特 徴：油体は各細胞に 1-2 個、大型でブドウ房状。細胞壁は厚く、トリゴンはやや大きい。葉は重なり、卵形。腹葉の幅は茎の 2-2.5 倍、先端は 1/3-1/2 まで狭く 2 裂し、側縁は全縁あるいはわずかな突起がある (図 2E-G)。腹片は葉の 1/2 長、キールは直線的。歯牙は 1 細胞幅で 1-4 細胞長 (図 2H-K)。透明細胞は歯牙のキール側につく (図 2H)。上部の葉の腹片基部に単細胞のスチルスがつく (図 2K)。枝の基部には分枝の時に裂けた葉基部の細胞がさや状に残る (図 2-L,M)。雌雄同株とされていたが⁷⁾、雌雄異株に訂正された⁸⁾。県内産の若い花被のついた植物体にも雄苞葉は確認できなかった。植物体はくすんだ黄緑色。

* 〒 252-0102 神奈川県相模原市緑区原宿 5-15-6

公益財団法人平岡環境科学研究所

Dicranolejeunea yoshinagana (S. Hatt.) Mizut.

ヨシナガクロウロコゴケ (図 3)

生育地：丹沢，西丹沢，大山，須雲川。

県内では山地の川岸の湿岩上などに生育する。1938年に丹沢でタイプ標本が採集され⁵⁾，その後数ヶ所で生育が確認された。しかしほとんどが溪流沿いの湿岩に生育し，再調査での生育は確認できなかった。

特 徴：油体は各細胞に10-20個，楕円形で均質であるが⁵⁾，乾燥標本からのスケッチなので記録はできなかった。細胞は薄壁でトリゴンが大きい。葉は卵形，全縁。腹葉の幅は茎の2-3倍，円形に近い。腹片は葉の1/3長，1細胞の2歯がある。透明細胞は第1歯牙の内側にある(図3J)。雌雄同株。花被は茎に頂生し，側縁上部に不規則な突起があり(図3P)，4稜(図3Q)。雄苞葉は短枝につき5-6対(図3B)。植物体は1.5-2cmで緑褐色，純群落を形成する。

Lejeunea flava (Sw.) Nees

キコミミゴケ (図 4)

生育地：丹沢，日向川，箱根，大雄山，須雲川。

県内では主に南西部の低地から山地の樹幹や岩上に生育する。

特 徴：油体は各細胞に3-15個，円形から楕円形でやや大きい微粒の集合。細胞は薄壁でトリゴンはやや大きく，表面には弱いベルカがある(図4K)。葉は楕円形で全縁，広く開出する。腹葉は大きくやや重なり幅は茎の約4倍，先端は1/3-1/2まで2裂し，基部は広く湾入して茎につく(図4H)。腹片は小さく葉の1/4長。歯牙は単細胞で透明細胞は歯牙の茎側にある(図4I)。雌雄同株。花被は茎や側枝に頂生し，5稜(図4O)。雄苞葉は短枝につき2-4対，雄腹苞葉は基部のみにある(図4A)。植物体の色は黄緑色。柔らかい群落を形成する。

Nipponolejeunea pilifera (Steph.) S. Hatt.

ケシゲリゴケ (図 5)

生育地：生藤山，丹沢，西丹沢，大山，日向川箱根，幕山。

県内では低地から山地まで広く分布し，樹幹に生育する。

特 徴：油体は各細胞に3-5個，円形から楕円形，微粒の集合。葉は卵形で先端付近に長毛があるかまたは全縁。長毛は数細胞からなり，先端の細胞は透明(図5F)。腹葉は大きく幅は茎の4-5倍，先端は1/5-1/4まで狭く2裂し，ときに長毛状になる(図5G-I)。標高が高くなると葉縁の長毛は多くなり，腹葉も先端が長毛状になる傾向が見られた。腹片は葉の1/3-1/2長，第1歯牙は1細胞幅で3細胞長，第2歯牙は1細胞幅で5細胞長と長い。腹片基部に単細胞のステルスがつく(図5K)。透明細胞は第1歯牙から数細胞下の内側にある(図5L)。雌雄異株。雌苞葉の先端部も長毛状になることがある(図5O)。雄苞葉は茎の途中につき3-4対(図5B)。花被は茎に頂生し3稜(図5S)。植物体は長さ1-3cmで明るい緑色から白緑色。純群落を形成するので目につきやすい。葉の長毛はルーペで確認ができるが，長毛が極端に少なかったり，まったくないことがある。幅の広い大きな腹葉も特徴のひとつなので，合わせて確認するとよい。樹幹上にカラヤスデゴケやシダレヤスデゴケなどと混生することもある。

引用文献

- 1) 磯野寿美子：自然環境科学研究，21，11-19 (2008).
- 2) 磯野寿美子：自然環境科学研究，22，39-50 (2009).
- 3) 磯野寿美子：自然環境科学研究，23，21-32 (2010).
- 4) 平岡照代，磯野寿美子，平岡正三郎：自然環境科学研究，20，101-127 (2007).

- 5) Mizutani, M. : J.Hattori Bot.Lab., **24**, 115-296
(1961).
- 6) Mizutani, M. : J.Hattori Bot.Lab., **73**, 175-182
(1993).
- 7) 岩月善之助編：“日本の野生植物・コケ” (2001),
(平凡社).
- 8) 水谷正美：蘚苔類研究, **8**, 89-91 (2002).

スケッチに際し山田耕作博士から貴重な標本をお借りしました。公益財団法人平岡環境科学研究所の平岡照代氏から標本を借用し、適切なアドバイスをいただきました。心よりお礼申し上げます。

(2011年7月15日受付, 2011年10月21日受理)

注：詳細図（図1－図5）は次の24ページからです。

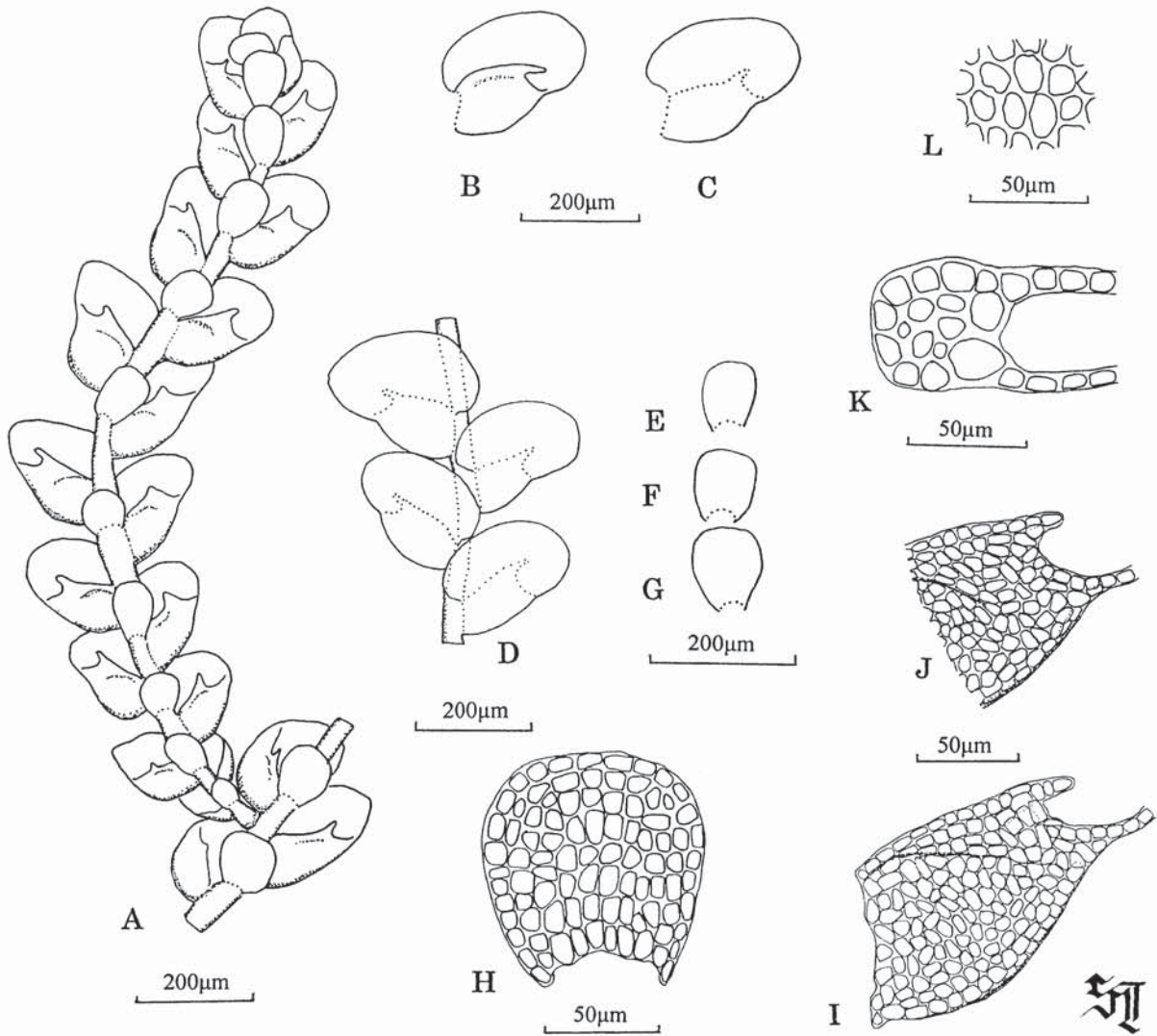


図1 *Archilejeunea planifolia* (Horik.) Mizut. ミヤジマヒメゴヘイゴケ. A: 植物体の一部(腹面). B: 葉(腹面). C: 葉(背面). D: 茎についた葉(背面). E-H: 腹葉. I, J: 腹片(歯牙). K: 茎の断面. L: 葉の細胞. (Hiraoka 11709 神奈川県厚木市谷太郎川 May 2000 より作図).

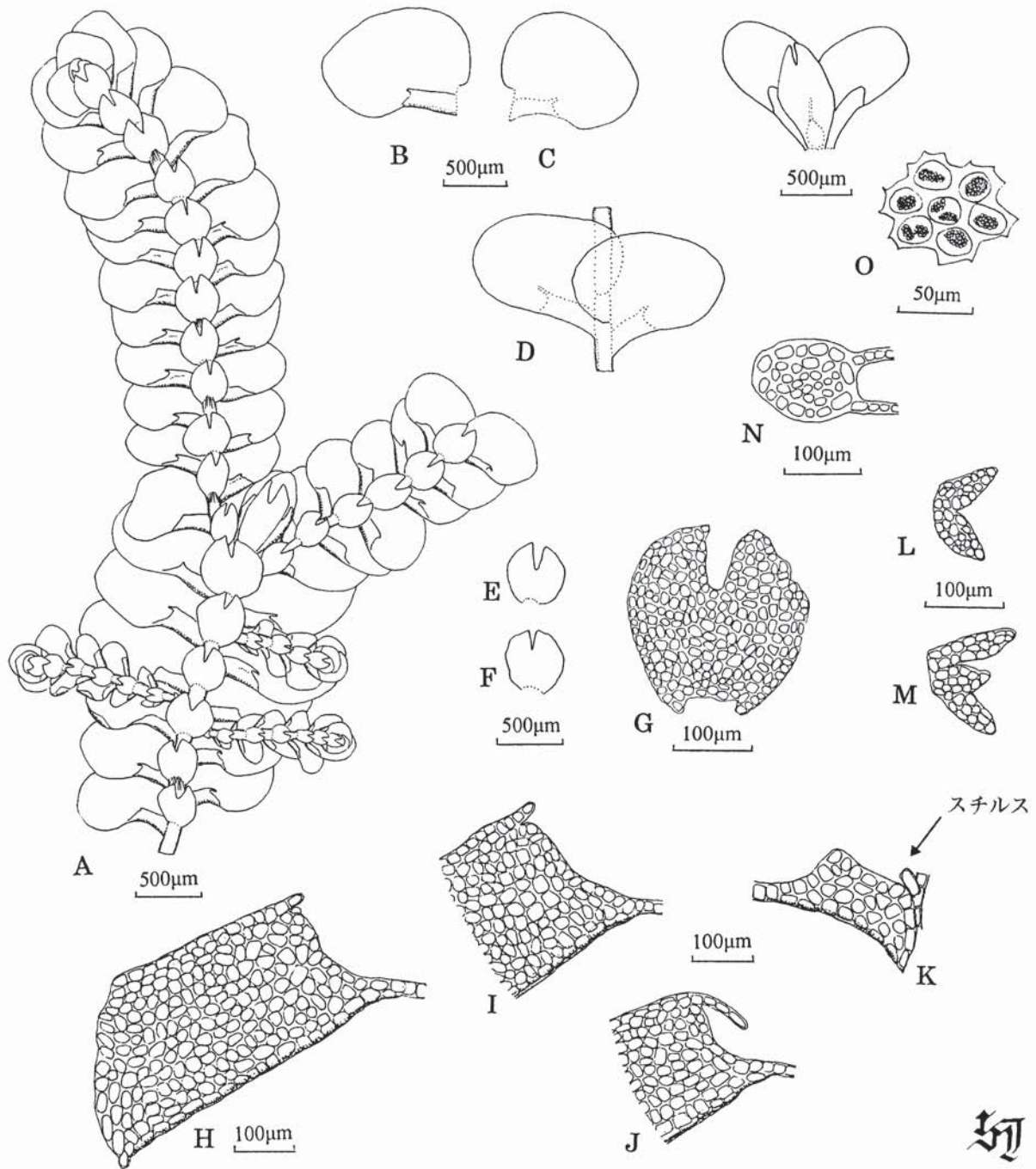


図2 *Cheilolejeunea trapezia* (Nees) R. M. Schust. et Kachroo シゲリゴケ. A: 植物体の一部(腹面). B: 葉(腹面). C: 葉(背面). D: 茎についた葉(背面). E-G: 腹葉. H: 腹片(歯牙と透明細胞). I-K 腹片(歯牙). L: 枝基部のさや(腹面). M: 枝基部のさや(背面). N: 茎の断面. O: 葉の細胞と油体. P: 雌苞葉と腹苞葉. (O, Isono 3152 神奈川県伊勢原市大山 Sept. 2004 生品より作図. その他 Isono 1856 神奈川県厚木市谷太郎川 Jan. 2000 より作図).

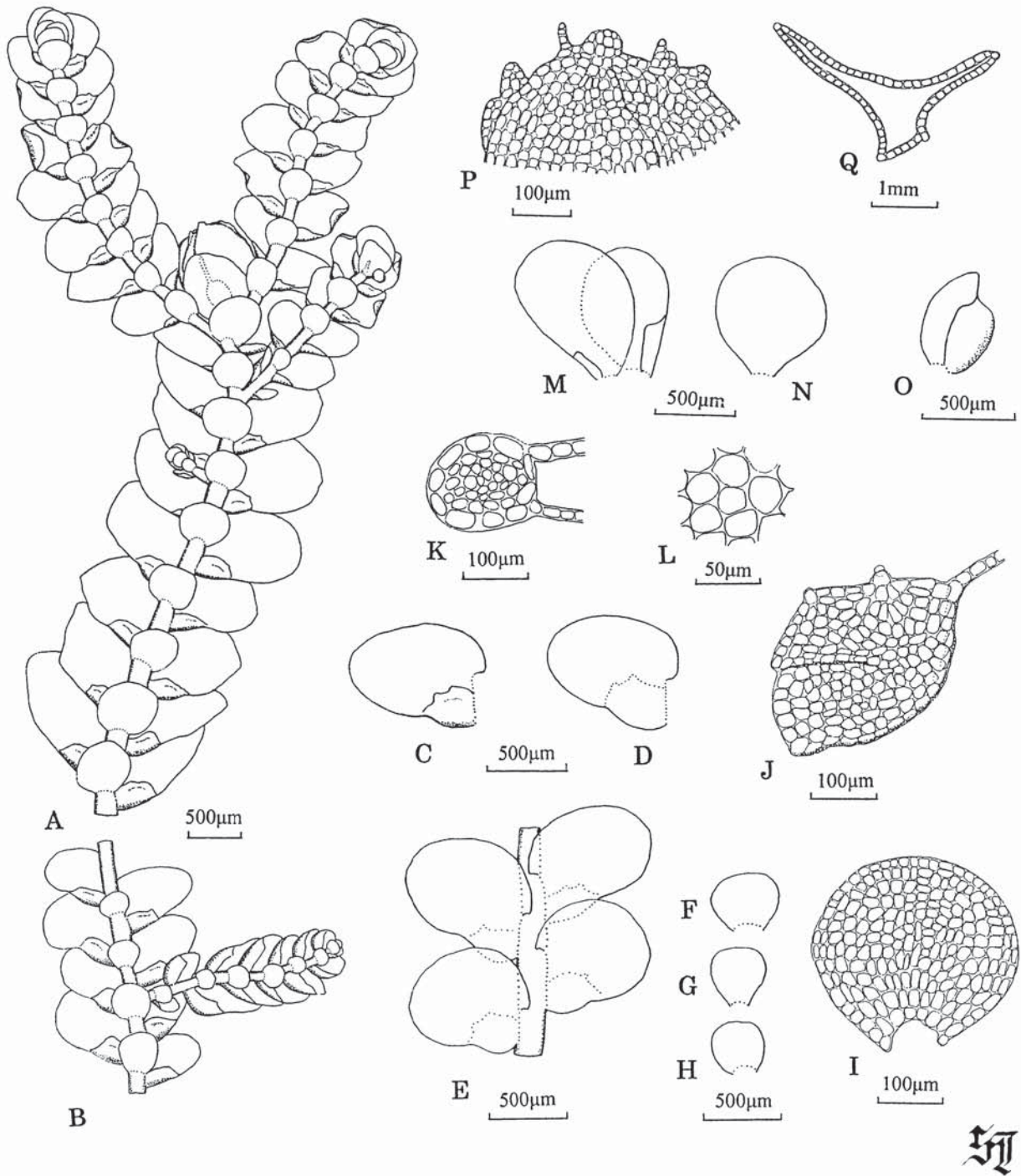


図3 *Dicranolejeunea yoshinagana* (S. Hatt.) Mizut. ヨシナガクロウロコゴケ. A,B: 植物体の一部(腹面). C: 葉(腹面). D: 葉(背面). E: 茎についた葉(背面). F-I: 腹葉. J: 腹片(歯牙と透明細胞). K: 茎の断面. L: 葉の細胞. M: 雌苞葉. N: 雌腹苞葉. O: 雄苞葉. P: 花被の口部. Q: 花被の横断面. (Hiraoka 16551 神奈川県足柄上郡山北町玄倉 May 2005 より作図).

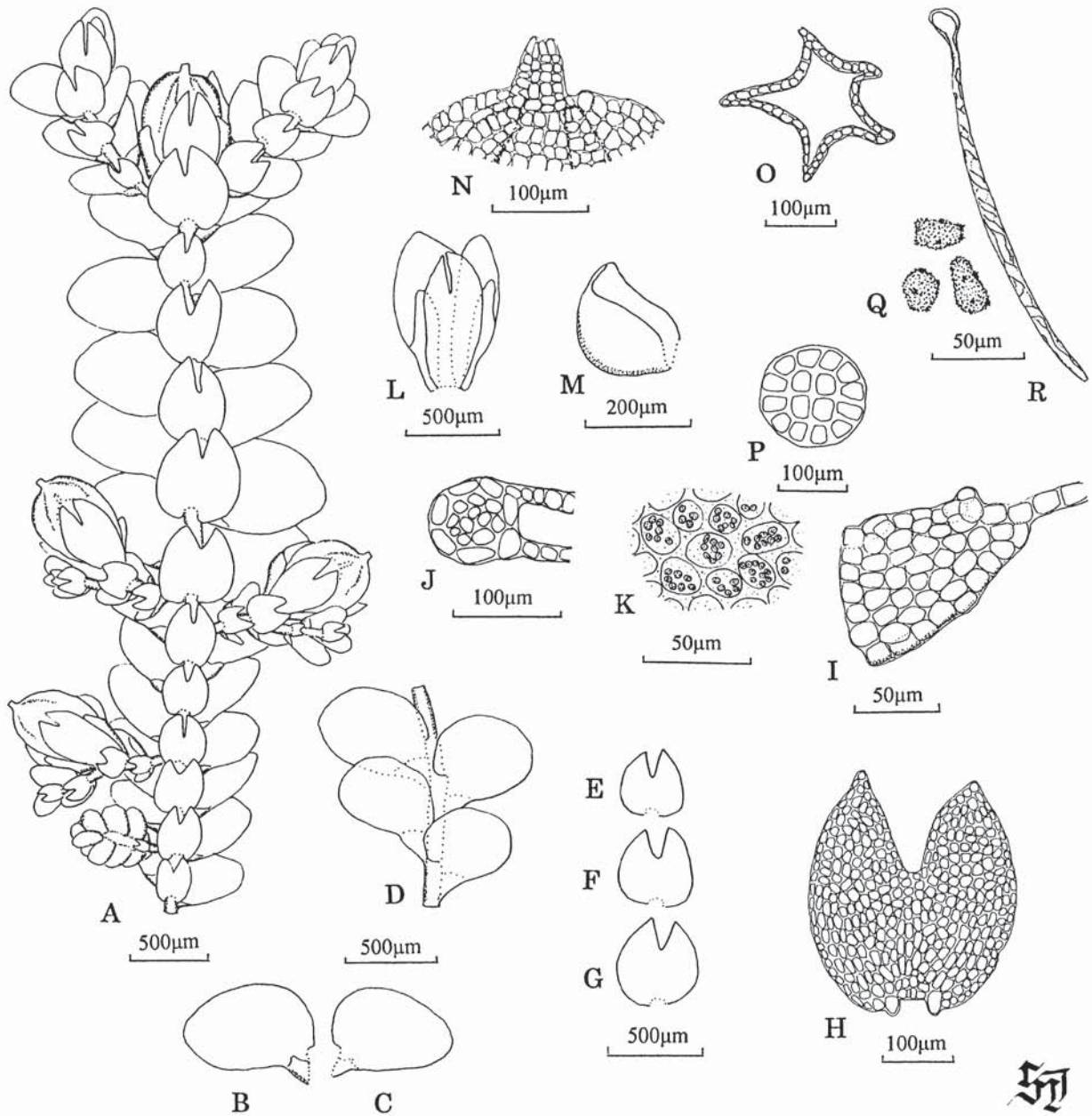


図4 *Lejeunea flava* (Sw.) Nees キコミミゴケ. A: 植物体の一部(腹面). B: 葉(腹面). C: 葉(背面). D: 茎についた葉(背面). E-H(腹葉). I: 腹片(歯牙と透明細胞). J: 茎の断面. K: 葉の細胞と油体, ベルカ. L: 雌苞葉と腹苞葉. M: 雄苞葉. N: 花被の口部. O: 花被の横断面. P: さく柄の横断面. Q: 孢子. R: 弾糸. (Isono 2892 神奈川県伊勢原市三ノ宮三段の滝 Jan. 2004. Kは生品より作図).

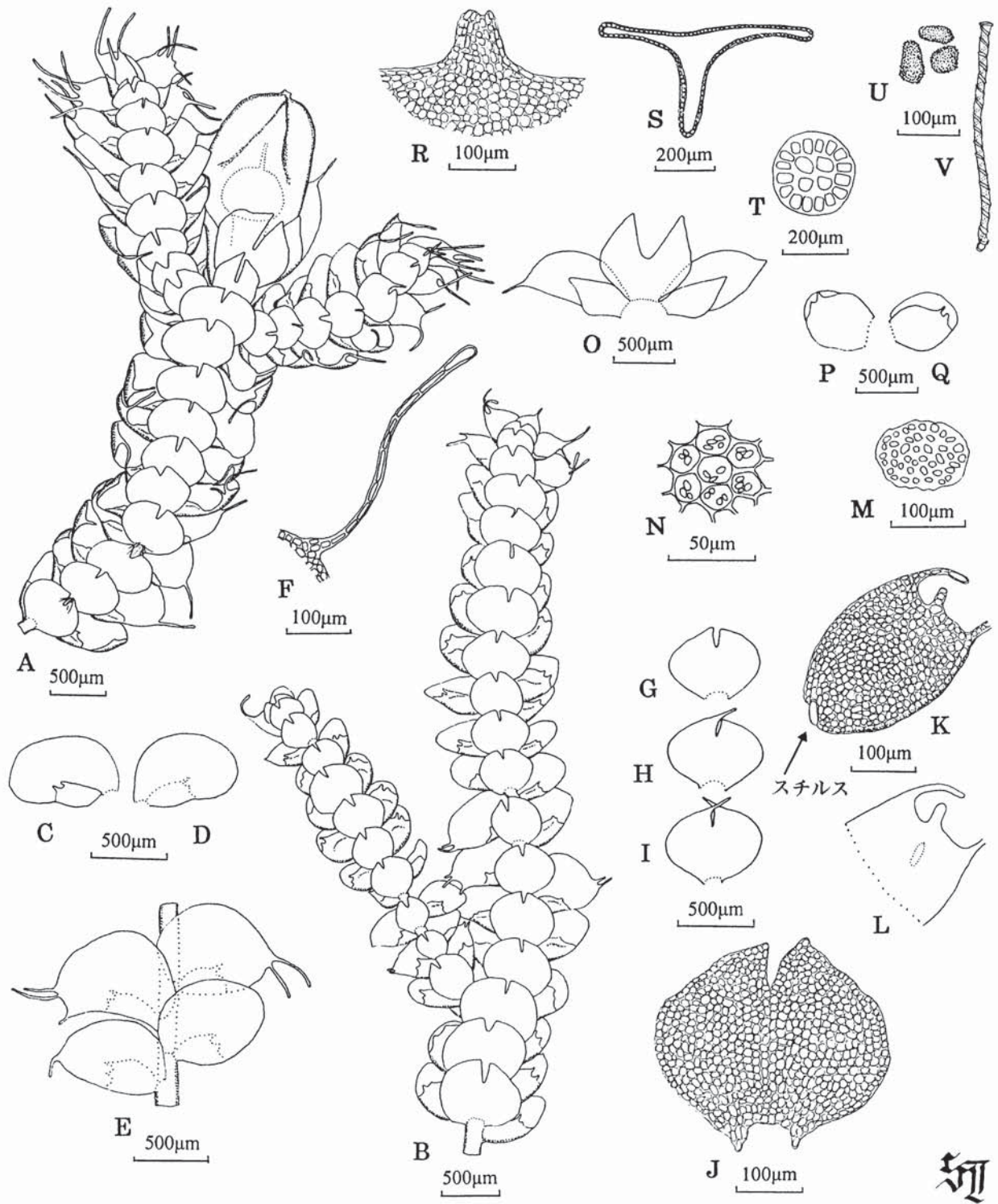


図5 *Nipponolejeunea pilifera* (Steph.) S. Hatt. ケシゲリゴケ. A,B: 植物体の一部(腹面). C: 葉(腹面). D: 葉(背面). E: 茎についた葉(背面). F: 葉縁の長毛. G-J: 腹葉. K,L: 腹片(歯牙と透明細胞). M: 茎の断面. N: 葉の細胞と油体. O: 雌苞葉と腹苞葉. P,Q: 雄苞葉. R: 花被の口部. S: 花被の横断面. T: さく柄の横断面. U: 孢子. V: 弾糸. (A,G-I,O,R-V, Hiraoka 15613 神奈川県愛甲郡清川村丹沢山 Nov. 2004. その他 Isono 4082 神奈川県足柄上郡山北町西沢 Sept. 2008 生品より作図).